

平成24年度住宅市場動向 国交省が調査結果を発表

注文・分譲・中古等入手者にアンケート

情報源:注文は展示場50% 分譲・中古は不動産業が最多

国交省はこのほど平成24年度住宅市場動向調査報告書を発表した。平成23年4月～平成24年3月の間に「注文住宅」「分譲住宅」「中古住宅」等の住宅を入手した人、並びに、「民間賃貸住宅」に入居した人、又、「住宅リフォーム」を行った人を対象にアンケート調査し研究したもので、住宅の建設、購入、リフォーム等の実体把握・分析がされており、関連業界人にとって大変貴重な資料である。紙幅の関係で今回は「住宅や工務店を見つけた方法」の部分に掲載、「決めた理由」、「リフォーム」等は連載する予定である。

調査方法は、前記の注文・分譲・中古・賃貸・リフォームの5種類の住宅ごとに、それら住宅を入手した人を対象にアンケート調査し、その回答をまとめている。

アンケート発送数は「注文住宅」が約3千で回収率は約40%。「分譲・中古・賃貸・リフォーム」はそれぞれ260～300程度発送し、回収率はどれも96～99%であったという。

報告書には、「調査結果の概要」、「注文住宅・分譲住宅・中古住宅・民間賃貸住宅・リフォーム住宅」のそれぞれの調査結果が記載されている。

今回本紙は、その「調査結果の概要」の「建築(購入)にあたり影響を受けたこと」の「工務店・住宅メーカー・購入した住宅を見つけた方法」の部分のを要約・抜粋して紹介する。その「見つけた方法」の結果は、別掲図で見る通りである。注文住宅では、「住宅展示場で」が5割を占めている。分譲住宅と中古住宅では「不動産業者で」が最も多く、とくに、中古住宅では6割近くとなっている。

又、分譲住宅・中古住宅では、「インターネットで・住宅情報誌で・新聞等の折込み広告で」がそれぞれ3割強となっているが、注文住宅ではそれぞれ1割強となっている。分譲・中古で多い「不動産業者で」は、注文住宅では約4%と低い。「建築(購入)にあたり影響を受けたこと」のその他の項目では、他に検討した住宅、住宅取得時の税制等、金利動向などが挙げられている。

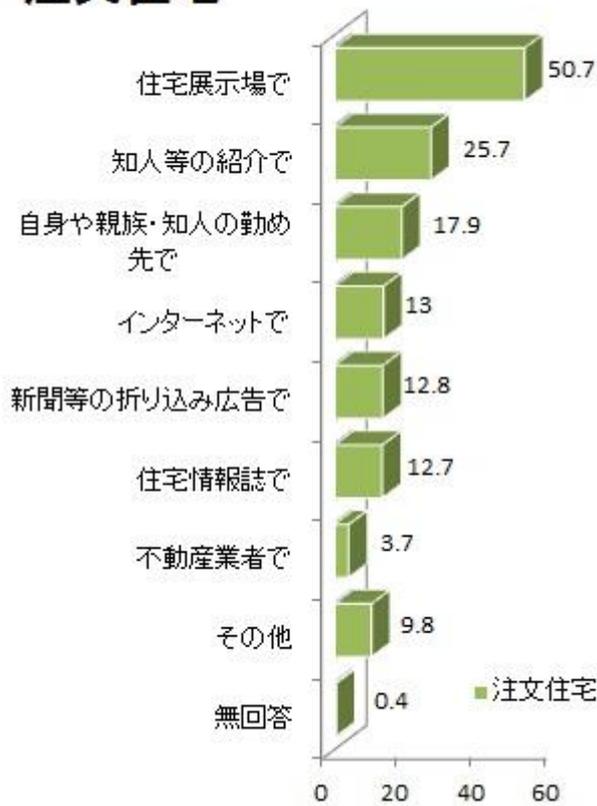
又、中古住宅では地価・住宅の価格相場・従前住宅の売却価格などが挙げられている。

前述したように、「今回建築・購入した住宅に決めた理由、中古住宅にしなかった理由、中古住宅にした理由」並びに「リフォーム住宅の調査結果」も大変興味深いものだがこの部分は次回以降に譲る。

なお、この調査は平成13年度より継続実施されてきているものである。

工務店・住宅メーカー・購入住宅を見つけた方法(複数回答)%

注文住宅



分譲住宅



中古住宅

